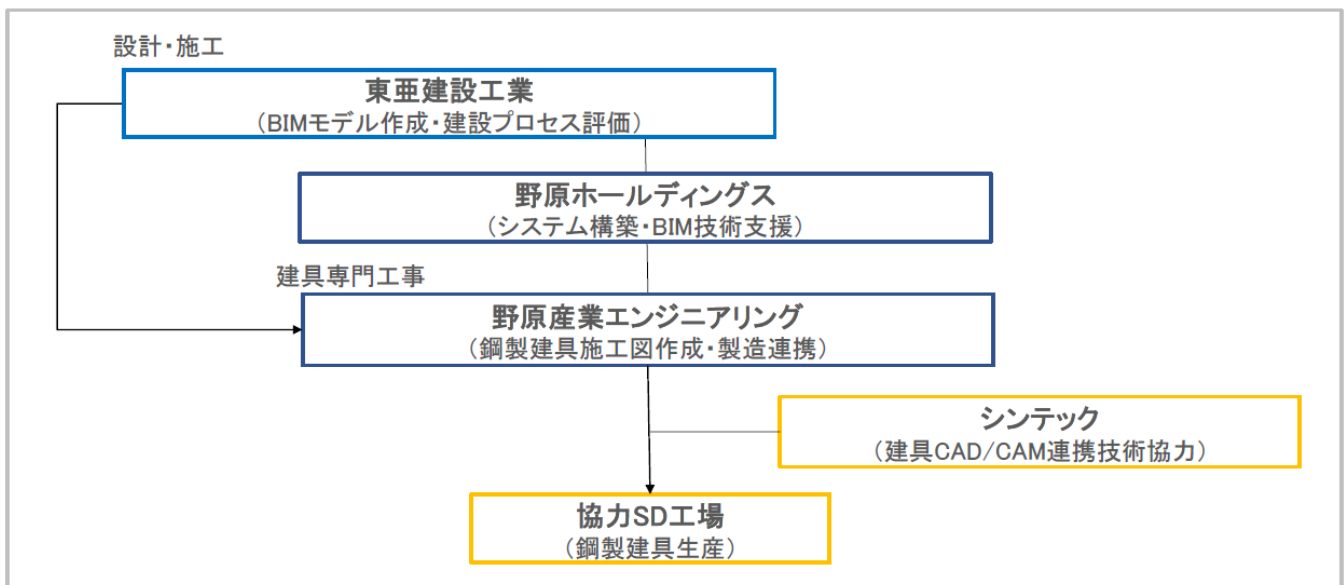


## 1. 概要

テーマ	鋼製建具生産サプライチェーンにおける生産性向上のための BIM 活用方法の検証
実施企業	野原ホールディングス株式会社、野原産業エンジニアリング株式会社 東亜建設工業株式会社
背景	これまでは建具専門工事会社にて 2 次元の設計図書から建具製作図を作成し、ゼネコンとの図面承認作業を行い、その図面をもとに工場が製作に必要なバラ図を作成しているが、作図手間の大きさや技術者不足などの影響により納期に大きな影響を及ぼしている。
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築物に広く使われている汎用性が高いスチールドアをターゲットとして BIM を活用したサプライチェーン全体の生産性向上に寄与する仕組みを構築・検証</li> <li>・ その他特殊な鋼製建具にも発展させることで、鋼製建具メーカー及び専門工事会社の立場から、BIM モデル活用による建具仕様決定プロセスのフロントローディングに対する課題や解決方法について、施工者とともに検証</li> </ul>
活用技術	<b>BIM 設計-生産-施工支援プラットフォーム「BuildApp (ビルドアップ)」</b> の次の技術サービスを活用 1. 設計積算サービスのひとつ「5D 自動積算見積」 2. 生産工程サービスのひとつ「建具施工図自動化」「建具 BIM 生産連動」
期間	2022 年 7 月～2023 年 3 月
実施場所	東亜建設工業株式会社 技術研究開発センター 第二実験棟 ※新築
実施概要	1. 生産情報と連動した鋼製建具オブジェクト(メーカーオブジェクト)の製作 2. 施工者が作成した BIM のジェネリックオブジェクト <sup>1</sup> とメーカーオブジェクト <sup>2</sup> の連携手法の確立 3. BIM データからの製作図作成 4. BIM データから鋼製建具工場の CAD/CAM への連携 ※主要 BIM ソフトは Revit

## 2. 実施体制 ※SD：スチールドアの略称



## 3. 実証結果詳細

- ・ [国土交通省発表「令和4年度 BIM モデル事業 検証結果報告書」\(2023/3/28\)](#)
- ・ 東亜建設工業、野原ホールディングスによる結果解説動画
  - ✓ 実証結果の解説 (野原ホールディングス 建設 DX 推進統括部 VDC 開発センター 部長 石田渉) :  
<https://youtu.be/-ksEx106L0c>
  - ✓ 実証結果の意義 (東亜建設工業株式会社 経営企画本部 DX 推進部 部長 兼 DX 企画課長 中野亘氏) :  
[https://youtu.be/nY8DQ\\_w2hqw](https://youtu.be/nY8DQ_w2hqw)

1 ジェネリックオブジェクトとは、メーカーの固有でない標準的な形状を持つモデル (BIM オブジェクト) を指します。

2 メーカーオブジェクトとは、各部材メーカー等が提供する製品固有の形状を持つモデル (BIM オブジェクト) を指します。